福岡県立筑紫丘高等学校

《生徒がICTを活用することによる学びの変容》

1 この1年間の本校の取組と変化

総合的な探究の時間では，Chromebook の積極的活用を前提に内容・方法を計画した。
↓
生徒の協働的活動，個人的活用を効果的に行うことができ，PC操作技能も向上した。

職員研修時に，Chromebook を授業で活用している先生の実践例を全職員で共有する機会を設けた。
↓
ベテラン職員の間にも活用を行う雰囲気が生まれた。

ICT活用研修を年間計画に位置付け，クラウド活用，特に Classroom の活用実践が課題であることを共有した。
↓
恒常的な活用にむけて，試行的実践を行う教員が増えた。

2 ICT活用の場面と生徒の学びの変容

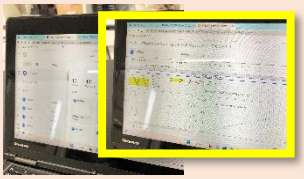
協働的な学習活動によって課題解決能力を高めさせる場面

↓
一人一台の PC を活用することにより，全員の積極的な活動が可能となり，多様な意見が見られるようになった。

他者の考えを通して自分の考えを再考し深めさせる場面

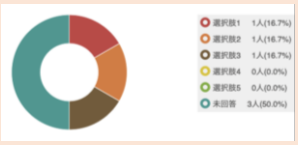
↓
発散的に意見や考えを出し，それらを論理的に収束させていく過程を体験し，生徒の表情が生き生きとしてきた。

評価に係る場面 ①
各生徒への課題提供・回収・返却のサイクルを個人評価に利用する場面



↓
個々の理解度に応じた対応や，学習履歴が可視化されたことで，生徒に目標を示すことができた。

評価に係る場面 ②
授業中における形成的評価に利用する場面



授業前後の回答率の変化に応じた柔軟な授業展開が可能
↓
生徒自身がつまづくポイントを認識でき，内容理解が深まった。

3 ICT活用により育成したい生徒の資質･能力

昨年度の課題	
	1 メインプラットフォーム
	2 中学校と大学との連携
	3 ICT活用のメリットとデメリットを考えた授業設計

1 一人一台 Chromebook 配備完了（令和4年12月）
2 中学校教員による授業参観実施
3 メリット：個別対応，協働作業，効率的授業進行 デメリット：実体験の疎遠化，文章記述力低下

活用課題と育成したい生徒の資質・能力

① Classroom を中心としたデータ共有を有効活用する授業を設計する。個々の生徒の理解に応じた学習機会と動機を与えることを通して，主体的に深い学びを目指す意欲を高める。
② 実験・実習，対面による議論や発表の場などの他者との協働作業の過程および評価において，ICT活用を効果的に行う授業を実践する。生徒の知的好奇心に応える多様な学びの機会を提供し，集団や社会のリーダーとして望ましい態度や行動の在り方を身につけさせる。